



例会



課題本

# 貴族探偵

DER

ADELSDETEKTIV



麻耶雄嵩



2013.11.9



## 麻耶雄嵩『貴族探偵』例会

11.9.

### (1)著者紹介

#### 麻耶雄嵩

1969年5月9日生まれ。三重県上野市（現・伊賀市）出身。本名、堀井良彦。

三重県立上野高等学校、京都大学工学部卒業。在学中は推理小説研究会に所属、この時に短篇の執筆を始める。そこで知り合った綾辻行人・法月綸太郎・島田荘司の推薦を受け、1991年『翼ある闇 メルカトル鮎最後の事件』でデビュー。

いわゆる「問題作」を一貫して書き続けており、研究会OBの大勢と同じく長編・短篇を問わず寡作ではあるが、独特の世界観と手法的アプローチに強いこだわりを持った癖のある作風で、マニアックかつカルト的な支持を得ている。同業者やミステリ界隈からの評価に関わらず長い間無冠であったが、2011年に『隻眼の少女』で第64回日本推理作家協会賞・第11回本格ミステリ大賞をダブル受賞。（Wikipediaより）

#### 《著作》

翼ある闇 メルカトル鮎最後の事件（1991年5月、講談社 / 1993年6月、講談社ノベルス / 1996年7月、講談社文庫 / 2012年3月、講談社ノベルス ※新装版）

夏と冬の奏鳴曲（ソナタ）（1993年8月、講談社ノベルス / 1998年8月、講談社文庫）

痾（1995年5月、講談社ノベルス / 1999年1月、講談社文庫）

あいにくの雨で（1996年5月、講談社ノベルス / 1999年5月、講談社文庫）

メルカトルと美袋のための殺人（1997年6月、講談社ノベルス / 2000年8月、講談社文庫 / 2011年8月、集英社文庫）※短編集

鴉（1999年4月、幻冬舎ノベルス / 2000年10月、幻冬舎文庫）

木製の王子（2000年8月、講談社ノベルス / 2003年8月、講談社文庫）

まほろ市の殺人 秋一闇雲 A子と憂鬱刑事（2002年6月、祥伝社文庫）、（2009年3月、祥伝社ノン・ノベル / 2013年2月、祥伝社文庫【春：倉知淳、夏：我孫子武丸、冬：有栖川有栖との合本版】）

名探偵 木更津悠也（2004年5月、光文社カップノベルス / 2007年5月、光文社文庫）※短編集

螢（2004年8月、幻冬舎 / 2006年1月、幻冬舎ノベルス / 2007年10月、幻冬舎文庫）

神様ゲーム（2005年7月、講談社ミステリーランド / 2012年5月、講談社ノベルス）

貴族探偵（2010年5月、集英社 / 2013年10月 集英社文庫）※短編集

隻眼の少女（2010年9月、文藝春秋、2013年3月、文春文庫）

メルカトルかく語りき（2011年5月、講談社ノベルス）※短編集

貴族探偵対女探偵（2013年10月、集英社）※短編集

## (2) 『貴族探偵』 作品紹介

### “召使いが推理 貴族が解決”

自称貴族が活躍する、異端の本格ミステリー

自称「貴族」、趣味「探偵」の謎の青年が、生真面目な執事、可愛いメイドなどの召使いとコネを駆使して、難事件を華麗に解決！ 知的スリルに満ちた本格ミステリー。

(文庫) 自称「貴族」で趣味は「探偵」という謎の男が、コネと召使いを駆使して事件を解決！ 斬新かつ精緻なトリックと過去に例のない強烈なキャラクターが融合した、奇跡の本格ミステリ集。(解説／千街晶之) (集英社作品ページより)

全く推理しない探偵が登場する『貴族探偵』ですが、事件自体はとても真面目なのではないでしょうか。ストレートな事件ばかりだと思います。ちゃんと解決しますしね。召使いが。

上の紹介では「自称」と書かれていますが、おそらく本当に貴族なのでしょうね。権力持ってますもんね。

#### 《収録作品》

「ウィーンの森の物語」

「トリッチ・トラッチ・ポルカ」

「こうもり」

「加速度円舞曲」

「春の声」

#### 1. 「ウィーンの森の物語」(小説すばる 2001年2月号初出)

出だしでいきなりやらかしちゃった犯人さん。思わぬ失敗にも対応したそのガッツ、もっと別のところに使うべきです。

#### 2. 「トリッチ・トラッチ・ポルカ」(小説すばる 2001年9月号初出)

死体の有効活用。女子高生に手を出したりするから恐喝されたり容疑者にされちゃうんですよ！

#### 3. 「こうもり」(小説すばる 2007年4月号初出)

真相が語られたとき、「ん？」となって前のページに戻りました。なかなかすごいです。

#### 4. 「加速度円舞曲」(2008年4月号初出)

浮気は駄目です。やるならちゃんとバレないように。私は北枕どころか自分の部屋の方角すら知りませんでした。

#### 5. 「春の声」(2009年9月号初出)

ぐるぐるですね。なんだかわいわいしてる雰囲気が好きです。おじいさま恐ろしい……。

### (3) 推理しない探偵

捜査も推理も人任せで女性を口説いてばかりいる「貴族探偵」。皆さんはいかがでしょう？

シリーズ第2弾の『貴族探偵対女探偵』も是非。